

会 議 結 果 報 告 書

令和7年6月6日

会議の名称	第1回 東地区まちづくり懇話会	
種別	☐ 附 属 機 関 ☒ 懇 話 会 等	
開催日時	令和7年5月27日(火)10時00分 ～	
開催場所	舞鶴市役所別館6階 612会議室	
出席者	別紙のとおり	
議題	・趣旨説明 ・まちなかの現況 ・誘導施策に関する懇話会について ・東地区のまちづくり ・誘導施設について ・今後のスケジュールについて	
公開の区分	☒ 公 開	
	☐ 部分公開	[理由]
傍聴者数	0 名	
審議結果 及び 主な意見等	別紙のとおり	
会議録の作成様式	☐ 詳 細 ☒ 要 約	
備考		

担当課	舞鶴市建設部都市計画課 TEL (0773)66-1048
-----	----------------------------------

第1回東地区まちづくり懇話会

1. 日時: 令和7年5月27日(火)10:00~12:00

2. 場所: 舞鶴市役所 別館6階 612会議室

3. 出席者: (委員) 嶋田委員、川井委員、名取委員、芦田委員、福村委員、渡邊委員

(事務局) 上羽次長、山下主幹、阿部係長、浪江
山本次長

4. 内容

【事務局より】

○本懇話会の目的について

- ・本懇話会は、市の「立地適正化計画」に基づき、人口減少が続く東地区の賑わいを再生させるための具体的なまちづくり構想を策定することを目的とする。
- ・昨年度の議論で、既存の補助金等の施策やランドバンク事業は即時の事業化が困難との結論に至ったため、今年度はまちなか全体に影響を及ぼしうる「誘導施設」を検討する。
- ・西地区に比べ構想が具体化していない東地区の将来像を描き、市や民間事業者が事業計画を立てやすくすることを目指す。

○東地区の現状と課題について

- ・東地区の誘導区域内では人口が約40年で半減しており、居住誘導区域(北側)の空き家率は24.7%とまちなかの活力低下が著しい。

【主な意見】

○舞鶴高専学生による「まちなか高専」の提案について

- ・八島商店街を高専キャンパスにするという学生提案は、大胆な発想で素晴らしい。
- ・学生がまちなかにいだけで賑わいが生まれ、まちづくりの希望や目標となる。
- ・学校全体の移転は困難だが、まず学生寮をまちなかに移すなど、実現可能な部分から検討すべき。
- ・提案の実現にハード面・ソフト面の長期的な実現プロセス(地元の協力、資金等)の検討が必要。
- ・計画を進める上では、期間限定の滞在者である学生だけでなく、舞鶴で長く暮らす市民へのメリットを最優先に考えるべき。

○高専生の地元定着と支援について

- ・優秀な高専卒業生が市外へ流出している現状はもったいない。
- ・卒業生が舞鶴で起業できるよう、地元が会社設立のノウハウを提供したり、店舗も安く貸し出すなどのサポートが必要。
- ・高専生は全国の大企業から声がかかり、地元企業が待遇面で競争するのはなかなか難しい。

・待遇面での競争ではなく、「自分たちのアイデアで勝負できる」という魅力を提示し「このまちを自分たちで作れる」といったようなアプローチが必要。

○空き家・空き店舗の活用課題について

- ・所有者の「息子が帰ってくる」「仏壇がある」といった感情的な理由で、活用が進まない現状がある。
- ・不動産業者の立場としても、高額な初期投資が必要な商店街の物件は、事業者に勧めにくい。
- ・行政による課税や解体補助だけでは限界があり、所有者へのアプローチは非常に難しい。

○住環境について

- ・高専の全面移転は困難だとしても、まずは学生の住居をまちなかに移すことから始めてはどうか。
- ・学生が安価で住めるアパートや、地域との繋がりをサポートする「コーディネーター付き住宅」などが考えられる。
- ・市内は通勤者、特に女性が安心して住める質の高い賃貸住宅(RC造、オートロック付き等)が不足している。
- ・高専がまちから離れていることが、学生と地域の間に距離を生んでいる。
- ・学生寮や教職員住宅がまちなかにできるだけでも、地域との接点生まれ大きな変化に繋がる。

○今後の進め方について

- ・高専生が現在進めている「まちなか高専」講義における提案を、本懇話会の場で発表してもらい、委員と学生が直接意見交換する機会を設ける方向で調整する。
- ・高専生がまちなか居住や寮生活についてどう考えているか、満足度やニーズを探るためのアンケート実施を検討する。